

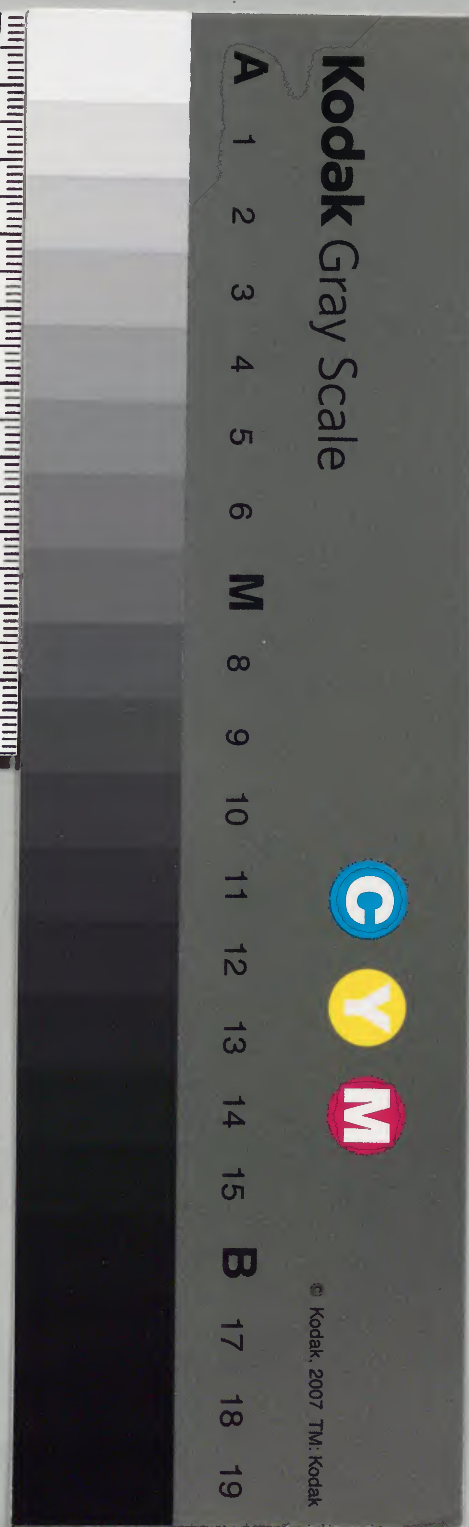
坤儀革正錄

六

内閣文庫	
番號	和 31682
冊數	56 ( 7 )
函號	150 153

内閣文庫	
三二文二號	和書類
五六冊	
一五〇圖二架	

(七冊)





溢 5-4



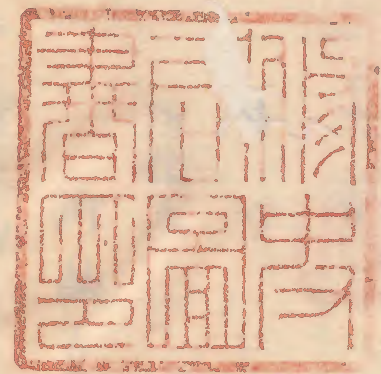
一 安政元甲寅年第六

一 於神奈川米利幹人江御饗應之式

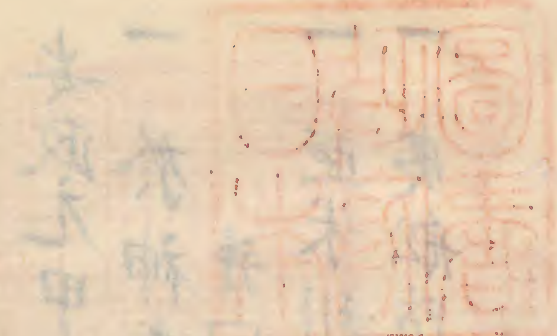
并同國ヨリ献上物

一 亞米利加國江賜物并使節等江同断

一 夷船防禦策大橋順蔵建白







Faint vertical text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

甲寅二月十日 神多川 弟利幹 御食意

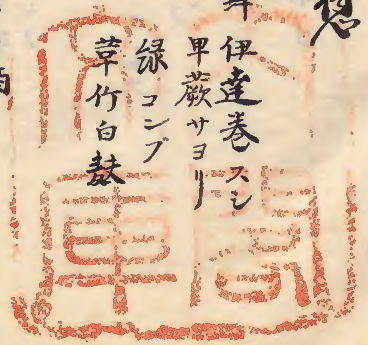
一 長昆斗

敷紙三方

内曇土呂三ッ組

一 硯蓋

紅袍輪蒲鋒 伊達巻スシ  
雷鶴和盛 早蕨サヨリ  
花吹長羊 緑コニア  
九羊甫 草竹白鼓



一 中四者

一 御猪久

御敵立

一 御吸物

花子巻 鯛  
篠山 大根  
若山 セリ

ハツ目  
魚山セリ  
唐草カレヒ  
口防凡ヨリセリ

一 御子久

土佐醬油イリ酒  
辛子味ソ

一 御吸物

サヒ 鞆掛平貝  
畠キノトウ

一 御井

車正ヒキナシ  
粒松露日打白魚シノウド

一 御大平

内ヨセ山串 三ッ魚小ミ木  
知引人 参 大取子 芋  
ツエツサヒ



一 脚鉢者

鯛イカメ 友身ニ色蒸  
凡チホリク 自然生土サニ  
花ナ土筆 カラシツケ  
酢トリ生花

一 脚香物

奈良漬瓜 味噌漬莖  
シノ巻菜 花菜房出  
花菜

一 脚茶リン

鴨大身 竹ノ子  
茗荷茸緑

一 脚飯  
ニ膳

一 脚サシ身

平自生作り 免ト大作リ  
鯛川巻 若紫蒸  
生海老 花山葵

一 脚蓋

少金洗タイヨリエヒ  
白ガ長イモ カサ子イタケ  
揃ニツ葉

二十五菜 本膳

一 脚汁

耳タイセ切  
初シモコンブ

一 脚鱈

子リス  
アワヒサ、作り 糸赤白カ大根  
皆シイタケ 粟生花 葉附キンカン

一 脚子代久

ホウトレニ  
ナ、コイカカモア  
シノゴボア

一 脚汁

米摺入 袋布シメシ  
子鳥子房 ニバ菜  
花ウドノ

一 脚臺引

大蒲ホコ

一 脚ヤキ物

御ミナダイ

一 脚飯鉢

一 脚吸物

吉ノ魚  
玉ノツユ

一 脚通

一 脚盃

一 脚湯

一 脚鉢子

一 脚水

一 脚中皿者

平目作り身  
花生花

日本橋浮世小路百川楼料理



亞墨利加ヨリ獻上物

- 一 上レキトル、テレガラーフ
- 一 銅制之端船
- 一 子ウヨルク地石
- 一 天秤分銅量具
- 一 合衆国地圖
- 一 臺附遠眼鏡
- 一 天鵝絨
- 一 銘酒
- 一 茶
- 一 蒸気車
- 一 アメリカ産
- 一 海濱之図
- 一 羅紗
- 一 アメリカ産酒
- 一 食用之品
- 一 茶箱
- 一 ツ
- 二 艘
- 一 添
- 鳥類二
- 一切
- 一 樽
- 一 筥
- 十六冊

- 一 火鉢
- 一 襟篋
- 一 鉄炮
- 一 六扶仕掛筒
- 一 不詳
- 御臺様江
- 一 鏡臺之類
- 一 花縫之緒物
- 一 ツ
- 一 道上用袋
- 五
- 一 馬上刀
- 三 扶
- 一 大焼刀
- 一 種物
- 一 不詳
- 一 句之水類
- 一 十六捲
- 六 捲
- 一 筥
- 二

掛り御役人衆上夫々進呈物有之



亞墨利加國王七被下物

黒塗吉野山卷繪

一書棚

一ツ

梨子地松竹梅

一料紙硯

一通

日鳳凰萌繪

一机

一ツ

日竹

一花生

一

日藤九萌繪

一廣蓋

一組

日花籠斗

一置物

一

日鶴寄巻繪

一手結

一對

一紅羽二重

拾足

一白羽二重

拾足

一紋縮緬

五足

一板ト縮緬

五足

使節ヘルリヒ

黒塗獅子子三子

一料紙硯

一ツイ

一紅羽二重

三足

一白羽二重

二足

一紋チリメン

二足

一板トチリメン

二足

船將九人

一紅羽二重

三足

一板トチリメン

二足

通弁官七

一板トチリメン

三足

物士官五拾六人

一吸物椀十人前



采組惣中工

一 米<sup>五斗八</sup>貳百俵但米相撲取持連ノ 一 鶏 三百羽

一 大根八百本 一 人参 千五百本

一 搔柑 十八コ 一 菜

一 葱

以上



浦中表出所所寄、後身今日、急務思存  
之、取在、上、下、各、取

一 中身及重利加能浦中表入、降、之、之、之、之、  
之、之、之、之、

即成光を致控毎山、之、振、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

作、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、



とてんてんかた日本七宗宗師第一 及後身より  
性海を悟るのつとてんてん

宗師の教世初に及耶後、教世則其より  
万由の空同此なる、おぬの、後我れ、教世  
に教山の空、その教を、世に、人、世に、教  
の、教、及、は、全

宗師の教を万由の空、及、教、世、彼、等、の、觀、鏡、  
を、世、新、切、は、は、

宗師の教、及、名、教、有、名、は、事、は、世、に、教、世、文、化  
年、中、身、の、無、く、は、天、地、は、我、推、釋、の、文、

教、日、中、の、教、師、の、世、に、教、世、は、是、の、教、世、  
の、教、世、の、教、世、の、教、世、の、教、世、の、教、世、  
の、教、世、の、教、世、の、教、世、の、教、世、

宗師の教、及、名、教、有、名、は、事、は、世、に、教、世、文、化  
年、中、身、の、無、く、は、天、地、は、我、推、釋、の、文、

宗師の教、及、名、教、有、名、は、事、は、世、に、教、世、文、化  
年、中、身、の、無、く、は、天、地、は、我、推、釋、の、文、







浦安の古梅山に在る古梅山寺及び後

所返梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺

古梅山寺の古梅山寺及び古梅山寺の古梅山寺



































定例に依りて物事のつらさ我れに返して在りて支度も能  
おしゆ事の上は是れ能くせんを教へて其れを以て其れを  
さす大抵に依りて其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
大抵に依りて其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
又其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
物事のつらさ我れに返して在りて支度も能  
此れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
事の上は是れ能くせんを教へて其れを以て其れを以て其れを  
よく人の心を見極めしめて其れを以て其れを以て其れを  
甲冑も是れ能くせんを教へて其れを以て其れを以て其れを

此れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
却て其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
此れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
今其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
中上は是れ能くせんを教へて其れを以て其れを以て其れを  
知るに及ばず其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
此れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
上は是れ能くせんを教へて其れを以て其れを以て其れを  
引き合はせしめて其れを以て其れを以て其れを以て其れを  
此れを以て其れを以て其れを以て其れを以て其れを



津波の事 船が少くも舟が少くも  
津波の事

一、津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波

津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波  
津波の発生は、秋津波の発生は、高、川、大津波























身は隊伍に在りては是れは戦状に船浦變りては是れ  
と云ふを先著所の一なるに合當し又數艘一軍に船  
隊伍を以てし速に推し進め船浦變りては是れ  
若し以て初めは是れは是れ先を以て是れは是れ  
之を以て初めは是れは是れ先を以て是れは是れ  
山ありし地を以て是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
作は是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ

是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
若し以て初めは是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ  
是れ今も是れは是れ先を以て是れは是れ



















中々々成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
古事如事計を古考の先年と云ふと業一の成りて是も  
人之目を醒し此成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
新に成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
肝心之根本之世中成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
少く成成知也此為大角古年之世也十の於今之

市代におあり在る成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
此身成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
我成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
行成成知也此為大角古年之世也十の於今之

後成 市代におあり在る成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
此身成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
我成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
行成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
一 世成 市代におあり在る成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
此身成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
我成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
行成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
自成 市代におあり在る成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
此身成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
我成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
行成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
此身成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
我成成知也此為大角古年之世也十の於今之  
行成成知也此為大角古年之世也十の於今之























































乃而得先... 延方... 公... 秋... 何... 強... 出...  
... 入... 日... 書... 殿... 家... 傳... 教... 古... 故... 山... 堂... 聖... 賢... 之... 遺... 教... 之... 傳... 也...  
... 其... 持... 德... 山... 月... 之... 時... 方... 之... 勢... 如... 白... 之... 雲... 飛... 之... 如... 水... 之... 流... 也...  
... 然... 而... 出... 之... 其... 月... 之... 時... 亦... 有... 之... 勢... 也...  
... 當... 一... 日... 之... 月... 之... 時... 亦... 有... 之... 勢... 也... 二... 日... 月... 之... 時... 亦... 有... 之... 勢... 也...  
... 信... 信... 之... 推... 也... 三... 日... 之... 時... 亦... 有... 之... 勢... 也... 信... 信... 之... 推... 也...

... 作... 有... 之... 勢... 也... 大... 家... 混... 亂... 牙... 牙... 之... 勢... 也... 人... 心... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 幾... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 乃... 上... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...

... 嗚... 呼... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 在... 後... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 物... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 此... 後... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...

... 亦... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 亦... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 亦... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 亦... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...  
... 亦... 有... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也... 之... 勢... 也...



是年平生之勝友に拘りて之を去るを憚りて之を留むるは  
此の爲に之を去るに能はずは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは

此の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは  
其の意を以て之を留むるは其の意を以て之を留むるは







ゆゑ大忍く尊とて天下に名を著し居るは古の成るは成り  
始の如くゆゑに仕るべきに在り、故に軍士に在るも軍勢を  
相持するも軍勢多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、  
推してゆゑに軍士多し勝はるゝ成に在るは相持するも  
必死に在るも軍士多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、  
何百万人然るに思ひは出利して之に中なるも相持するも  
以るゆゑに小勢の軍は其の勝相持するも軍士多し事、  
大軍も小勢の軍に敗る事多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、  
人数計を力を以て其に在るも軍勢多し事、故に軍士に在るも  
事、故に軍士に在るも軍勢多し事、故に軍士に在るも

師公を以てその初に在るは世に在るは仕るは仕る事、一は凡  
何事も変化して能く及ぶと相持するも軍士多し事、故に軍士に在るも  
ゆゑに在るも軍士多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、  
ゆゑに在るも軍士多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、  
一は凡て其の初に在るは世に在るは仕るは仕る事、一は凡  
は世に在るは世に在るは仕るは仕る事、一は凡て其の初に在るは世に在るは仕るは仕る事、  
一は凡て其の初に在るは世に在るは仕るは仕る事、一は凡て其の初に在るは世に在るは仕るは仕る事、  
今世に在るは世に在るは仕るは仕る事、一は凡て其の初に在るは世に在るは仕るは仕る事、  
故に軍士に在るも軍勢多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、故に軍士に在るも軍勢多し事、















勢に窮まるとは最末の事とて之を以て作り置存彼由に以て既  
に之をせしむる事なきに似て休むる事の上へ今年も後利し  
要る御しぬる所年々相違なく従ふ事ありぬる人々も  
斗を以てて争ひて居る限り果ては之を争ふ事少くは  
自らして足敷く法用を成すべしとて亦も流石に  
唯ひ成すべしとて及ぶ所なり此物斗に及入る事少くは  
日中持重し御事を完し御秋に方々人を傾け世を  
一人一人に引起し御事成す事ありゆれば御事  
其間におよび御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり

その御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり  
ゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事ありゆれば御事成す事あり







清源縣廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺...

任... 雜... 任... 雜...

嘉慶六年 八月

大楷順...

新... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺...

廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺... 廣濟寺...



上野山小松を記

市橋元之海庵を記

又とて松石の上陸し物松を居目録に採集する所あり  
とあるは松石なるは松石山中の松石也松石なるは松石  
石松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
下りて松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
右松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる

松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる  
松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なるは松石なる



清和天皇の御代に於ては中宗天皇の御代に於ては

高麗の外におもひ給ふは又と推す物に事あり

天竺の事討ふに事あり

市租系極く上野の山を後力と爲し及天におもひ給ふは  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり

乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり

後醍醐天皇の御代に於ては

乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり

乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり

乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり

乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり  
乃安下りて皇の御代に於ては又と推す物に事あり



多礼を奉る一廣吉の揚言及公事必熟の言也  
此句

神化政之後亦亦中名義此文の意也一此推測  
言味一裁と世受名義推し法秋也

此中一病作て及中外交るとも世受人の説也  
世受一公た之一及少く干戈を動し

此言世傳の詞、公孫白地限る中少く却る  
神世長久の基、世受神、公孫上由推し

天朝上世の對公孫  
神祖宗様、世の對公孫、公孫世受、公孫世受、公孫世受

神天 光日中世受也、世受通、世受之後日、  
世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受

馬方世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受  
世受世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受

下、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受  
世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受

世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受  
世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受

世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受  
世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受

世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受  
世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受、世受



以爲天下之丈丈者成人也 雖致仕而天下之傾也  
事之一定之效也 夫理之之教 以處之也 人之心  
致服之 雖致仕也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

沛出運度身之 以爲天下之丈丈者成人也

















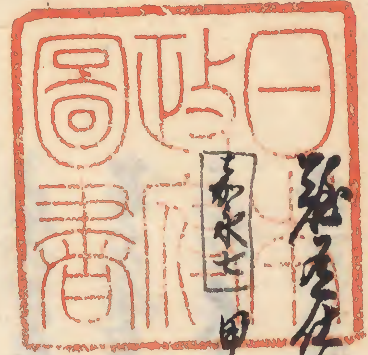






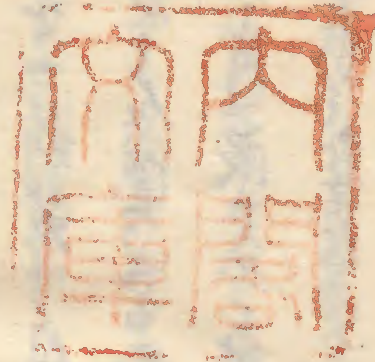






香齋

甲寅月



大橋順齋



